



vol.3



WEB



Facebook

発行：佐賀県農産課

<http://www.pref.saga.lg.jp/list00069.html>



森永牧場株式会社  
代表取締役 森永公一さん



## 働くみんなが幸せになれる肉用牛経営 作り手の思いを『物語』として伝えたい



### 脱サラ後に農業大学校で学び就農

一貫経営による「佐賀牛」生産で注目されているのが、森永牧場株式会社。現在森永牧場の代表は、2代目の森永公一さん(37歳)です。経営規模は、肥育250頭、繁殖60頭、育成子牛40頭の合計350頭。年間生産量(出荷頭数)は、およそ150頭にのびります。森永さんが12年前に就農してから、経営規模はほぼ2倍に拡大しました。就農当初から目指してきたのは「ゆとりある畜産経営」。「安心・安全の美味しい肉をつくるのは当たり前。若い人が肉用牛経営を『やりたい』と思うような魅力的な仕事・職種にしたい」と語ります。

森永さんは、東京農業大学で産業経営学を学んだ後、民間の食品商社に就職し、サラリーマンを経験します。「父が毎日忙しかったために、家族旅行をしたという記憶がありません。『父の仕事は大変だな』と思っていました。スーツを着て仕事をすることに憧れもありました。でも、実際に会社員になってみると、休日出勤も多く、大変でした。どんなに大変でも給料は決まっている。それならば自分で仕事し、かせいだ方がいい」。1年半で脱サラ、就農を決断しました。

裏面へ続く・・・

TOPICS



### 佐賀県農業大学校では、平成30年度入学生を募集します！

佐賀県農業大学校で、農産物の生産から加工、流通・販売、マーケティングまでを一貫して学び、高い経営管理能力を備えたプロ農業者を目指しませんか。募集課程や募集定員、願書受付期間や選考方法など、詳しくは佐賀県農業大学校にお尋ね下さい。  
問い合わせ先、申し込み先：佐賀県農業大学校 TEL 0952-45-2144





## みんなが幸せになる企業を目指す

農業の他の分野同様、畜産業界でも、生産者の高齢化が進んでいます。ブランド牛として知られる「佐賀牛」も出荷頭数が減少傾向にあります。そんな現状を少しでも改善し、森永牧場の知名度を上げるために、森永さんは、ロット(自社生産頭数)の確保・拡大が必要と判断しました。「これ以上の規模拡大は家族経営では無理。社員を雇用して畜舎作業の自動化を進めることが必要だと思いました」。そして、平成28年9月に法人化して、森永牧場株式会社となりました。

法人化するにあたって、森永さんは「社員全員がちゃんと休みをとれるようにしたい。ゆとりを持って仕事ができ、しっかりと給料をもらえて、みんなが幸せになるようにしたい」と考えました。福利厚生や休暇などの制度をきちんと作ることで、若い人たちが「やりたいな」と思うような仕事・職種にしていきたい、と言います。「きつい部分はあるかもしれないけれど、その分やりがいがあって、サラリーマンより儲かる、という形を作るのが目標です」。

働く人だけではなく、牛にとっての快適な環境づくりも良質な肉を生産するための重要なポイント。森永牧場では、夏の暑さを和らげるための細霧装置の設置や、敷きワラの交換回数増加など、牛のための環境作りにも努めています。さらに、糞尿の堆肥化も実施。機械化された別棟の堆肥発酵舎に運ばれ、十分に発酵された堆肥は、良質な堆肥として、アスパラ農家やタマネギ農家へ販売され、森永牧場の収入源となっています。

もっと詳しいお話はwebサイトをチェック！



自動給餌器



糞尿の堆肥化

## アンケートにお答えください！

「SAGA アグリ之星」は、サイトとフリーペーパーで、次世代の佐賀農業を担う人材をご紹介します。今回のインタビューに関する感想や、佐賀の農業への思い、また、フリーペーパーやサイトに掲載する佐賀の農業情報や、農業に従事している人について、どんなことを知りたいかなどのご要望をお寄せください。

アンケートは、「SAGA アグリ之星」サイトで、スマートフォンからもお答えいただけます。右側のQRコードからアクセスしてください！



SAGAアグリ之星  
アンケートページ